

ビオトープだより第35号

会員・BAより ビオトープに関する情報を提供します。



特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会

<https://www.biotope.gr.jp/>

1. 放棄されて10年以上、実家の里山の手入れ

副会長、北海道・東北地区委員長、主席BA、(株)エコリス 佐竹一秀

はじめに

今年の2月頃より実家の里山の手入れ（草刈り等）を始めました。場所は宮城県北部にある丘陵地の一角、山間の2ha程度の放棄された水田、畑地、草地、山林です。昭和30年、父の時代に3世帯で入植し、開墾が行われた場所です。我が家は10年ほどで山を降り、両親が通い＆兼業で耕作を行ってました。その両親も既に他界し、ここ15年ほど手入れがされていない状況です。他の2家族も時期に違いがありますが、すでに離れており、10年程前からは住人はいなくなりました。その後、3年ほど前から全く人手が入っていない場所です。上の写真は6月の空撮写真で、上が北方向です。



今後も継続して手入れをする予定です。そこで、手入れの状況、それに伴う環境の変化、荒廃した里山問題の実際、その他について、実体験をもとに時々このビオトープだよりに投稿させていただきます。

現地の概況

下の写真が2月、落葉期の空撮写真です。上の写真とは逆方向から撮ったもので、赤線内が我が家の土地です。周辺状況は西側と東側にスギ林が連なり、中央部の低地には水田放棄地、ため池もあります。東側の場所には畑放棄地があり、樹木が入り込んで樹林地になっています。他にスギ、ヒノキの屋敷林や境界林、竹林などもあり、遠目から見ると良好な自然環境に見えますが、笹藪が生茂り、樹木も伸び放題、典型的な荒廃した里山です。



密生した笹藪

今回が第一回目ですので、特に里山荒廃の状況を示す笹藪を写真で紹介いたします。

仕事柄、多少の藪こぎは気にならず撃破してしまいうのですが、10年物の密生した笹藪は全く歯が立たず、草刈り機の力をかりてどうにか進入路を確保し、そこを徐々に広げつつ刈払いを続けて行っています。

右の刈り払い途中の笹（アズマネザサ）です。前頁の下 付近の写真です。この場所の笹を計測してみたところ、平均値として高さは3.9m、根本の直径は13mm、密度は62本/m²でした。このような場所が各所にあります。

下の写真は2月の笹刈りする前の写真で、右側が6月中旬です。この刈進んだ先に我が家（廃屋）があり、そこまでの間は幅5.5m、長さ50m程の笹藪が連続しており、延べ15日程かかって笹のトンネルを開通させました。



その他の問題点

笹藪以外にも放置竹林、廃屋・ゴミ問題、スギ植林伐採、搬入道路の劣化、シカ・イノシシ侵入、外来種問題等々、問題が荒廃した里山問題が山積です。今後、それらの状況も報告します。

自動撮影（熱感知）カメラの写真

自動撮影カメラも現地に設置しており、今回は映り込むことの多いシカを取り上げます。この地域にシカが侵入し始めたのは20年程前、牡鹿半島・金華山の個体群が分布を拡大してきたと思われます。

